

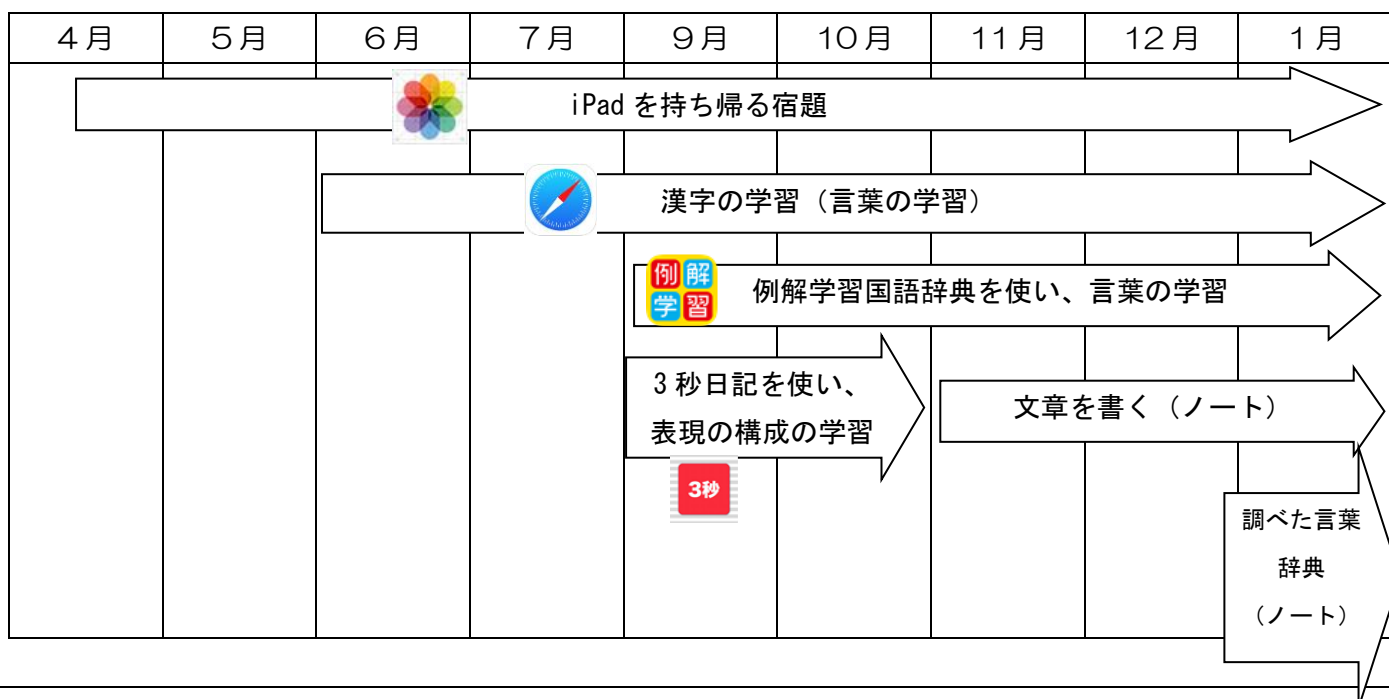
魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：千松 聡司 所属：大阪府立寝屋川支援学校 記録日：2017年 2月 8日
 キーワード：表現、学習支援

【対象児の情報】

- 学年 小学部2年
- 障害名
 - 知的障がいを伴う自閉症（診断はこのように出ているが、実態とは異なる。）
- 年度当初見られた障害の状況
 - 1年生時の太田ステージによる評価は、ステージⅢ-2。（2年生時は、Ⅳ-1）
 - 会話において、自分から言葉を発することが難しかった。一方で、授業中は積極的に発言がある。
 - 様々なことにおいて、経験不足が目立つ。本人の新しいことは避けようとする面と、自信のないことはやりたがらない面がさらに経験不足を助長している。
 - 家庭においても、家族との会話が極端に少ない。安心でき、大好きな母親が相手であっても言葉でのやりとりがあまりない。
- 6月初旬明らかになった本児童の特性
 - WISC-Ⅳの検査結果より、知的発達の遅れが見られない。
 - 事実、算数と国語に関しては学習指導要領に沿って学習ができる。算数に関しては学齢以上に能力がある。
 - 言葉の学習、話しの面、想起の面で大きなつまずきがあることがわかった。
- 6月以降の障害の状況
 - 言葉の意味が捉えにくい。
 - 言葉を想起することが難しい。
 - 語彙が乏しい。

活動内容の変遷



【活動目的】

・当初のねらい

- ①特にクラスや家庭において、自分の考えや気持ち、質問に対する返答等を言葉で相手に伝える経験を重ねる。
- ②iPad やその他視覚的に分かりやすい物、具体物を通して、相手からの問いかけやに対して答える経験や、場を共有して楽しむ経験を積み、1対1で話をする素地を養う。

・活動が進むにつれて変化した目標

- ①動画や写真等の視覚的なヒントを手がかりにしながら、言葉を思い起こして話す経験を重ねる。
- ②感想や思い出、経験したことを表出することに取り組む。
- ③ICT を使い視覚情報で補いながら、語彙の獲得ができる。
- ④言葉の使い方や色々な言い回しを知る。

・実施期間

2017年4月～

・実施者

千松 聡司

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児童の事前の状況

4月当初より、

- ・クラス内で担任と、また家庭で保護者と話をする状況になった際、極端に言葉でのやりとりが少ない。意味の理解ができているものの、質問に対しては首を振って答えることで代替としている。
- ・家庭での保護者とのやりとりにおいても、学校やデイサービスで起きたこと、楽しかったこと等をなかなか話さないようであった。
- ・一方で、授業中は積極的に挙手して答えることができる児童である。

<担任の予想>

- ・恐らく場面性のかんもくがある。
- ・自分の中では家庭と学校は不干涉と決めているのだろう。

<予想に対する手立て>

- ・学校のことを家でも『学校のことを見れる』環境を作ってみる。
- ・母親にも見てもらう時間を作り、できれば感想や出来事を話してみる。
- ・関係性ができてきたら、家のことを担任にも伝えられるように撮影をする宿題を与える。
- ・クラスの役割として発表の場を設ける。(興味のある給食のお知らせ係)

iPad 持ち帰りの宿題 start

見られた変化

- ・自分で「これは見てもいい」と決めた動画に関して、動画の顛末を言葉で伝えられるようになってきた。

- ・以前は全くなかった学校の話題で話ができる時間が、母親の実感としてかなり増えた。
- ・学校で、振り返りのために動画を見ながら感想を言ったり、好きな動画を見返しながら担任に「このあとこうなる」と伝えられたりすることが増えてきた。

【担任としての疑問点】

以上のような手立てがあると、取組み開始から短い期間で話せる場面が増えてきたことに加えて、日頃の学習の内容（学年に準じた学習内容が理解できている）から、個人内差を正確に把握するために、WISC-IVの検査を行うことにした。

WISC-IVの検査結果

（2017年6月3日と5日の2日間に分けて実施）

※本来は言葉によって回答する部分があるが、筆答による答えも参考に入れた。

検査結果

| 6月初旬 | | | | 信頼区間 | |
|-----------|------|------|---------|---------|------|
| | | 合成得点 | パーセンタイル | 90% | 記述分類 |
| 全検査 | FSIQ | 96 | 39 | 91-101 | 平均 |
| 言語理解 | VCI | 62 | 1 | 59-73 | 低い |
| 知覚処理 | PRI | 111 | 77 | 103-117 | 平均以上 |
| ワーキングメモリー | WMI | 100 | 50 | 93-107 | 平均 |
| 処理速度 | PSI | 124 | 95 | 113-129 | 高い |

・得意なこと

視覚情報を素早く、正確に、順序良く処理する力。また、識別したり早く書いたりする力。

ワーキングメモリー

視覚情報を基に推理したり、新しい情報を基に課題を処理したりする力（知覚推理、知覚処理）

・補いたいこと

言葉が意味する内容や性質を考える力（言語概念の形成）

言語を使って推論する力（言語性推理）

言語の知識（語彙、一般常識）

- ・知的発達に遅れが見られない。しかし、言語の面で大きく困難があることが分かった。

・活動の具体的内容

想起に関すること

≪言葉を思い起こすために、画像や動画でイメージを補完する。≫

①話すこと

引き続き、週に2回iPadを家庭に持ち帰る宿題を与えた。iPadには、その日にあった出来事を撮影したものをに入れて持ち帰った。（授業中の様子、遊びの場面等）また、6月の下旬頃から自分でも

動画を撮り始めた。

友だちの影響もあったと見られるが、本人の心境の変化（もうちょっと色々言いたいな）があったように捉えられる。

『撮る→見る→言う→伝わる』のサイクルが、言葉の想起をする経験、モチベーションに繋がると考えた。

②表現することⅠ

自分の気持ちや考え、経験などを表現する手段を身につけるため、文章で表現する力が必要だと考え、手軽に日記がつけられるアプリ「3秒日記」で文章の基本的な構成や、書くべき内容を学習した。（「3秒日記」は、選択肢の中から該当するものを繋げて日記にできるアプリである。（選択肢は増やすことができる。）

また、書いたものを必ず音読した。動画や写真を見ながら文章を書く学習を進めた。



アプリ「3秒日記」

③表現することⅡ

少しずつ文章を書く学習に取り組み始めた。

取り組むにあたっては、写真や動画を見ながら思い出すことで下図にあるような右半分のメモを書き込んだ。写真アプリには、撮った日時や場所が情報に含まれるため、その情報も利用しながら文章を書いた。



言葉の学習に関すること

≪言葉の学習をする際は、画像や動画等の情報と絡めながら記憶に結びつける。≫

①言葉の学習の画像利用と検索の方法

本を読んだり、文章問題に取り組んだりする際には、iPadを併用して画像を検索したり、言葉の意味を調べたりしながら学習する。本児にとって、これまでの言葉の学習＝言葉による学習のみ（主に国語辞典）であった。これからの言葉の学習＝具体的なイメージを視覚情報で補いながら言葉で学習にしていくなが必要があった。



②言葉の意味理解、語彙を増やす

語彙の獲得を目指して、アプリ「例解学習国語辞典」を使った。

元々国語辞典を引いて漢字を調べることが好きであったため、iPadでも国語辞典が使えることは本児童の興味を大きく引いた。

言葉だけでなく画像を差し込んで使える点が本児童の実態にマッチし、新出漢字を用いた熟語や、文章読解の中で知らない言葉があったらその都度、例解学習国語辞典→safari→画像貼付けという流れを繰り返した。

アプリ「例解学習国語辞典」

・対象児の事後の変化

想起に関すること

①話すこと

以前は上手く言えなかったことも、具体的にどんな物だというイメージを持つことによって、言葉を想起して言いやすくなった。また、自信がついてきたことで、これまでは怒って誤魔化していたことに言葉で対応できるようになってきた。

たとえば、

<家庭の様子>

- ・母親の実感として、自分で iPad を使って撮影をし始めてから、学校と友だちの話題が多くなった。(6月)
- ・今までは一切話さなかった学校の友だちのことを、苦手なことや得意なことを含めて話すことができた。
「〇君は、牛乳が苦手やけど、野菜がめっちゃ好きやねんで！大盛り食べれんねん！」等(7月頃)
- ・運動会でどういったことをするのかを説明できた。
「このかいじゅうは、アカゴモラって名前になってん。」
「ドラえものの帽子かぶって踊るねん。」等(10月頃)
- ・また、弟との関係性にも変化が見られた。(12月頃)

連絡帳より

弟と話し合いをして、ゲームの順番を決めていました。
弟が熱を出したことを心配してくれました。



<学校の様子>

- ・朝の会、帰りの会において、自ら発信することが増えた。
「今日のメニューは〇〇でーす。△△(素材)でーす。」等と言えることが増えてきた。(6月頃)
- ・動画を見ながら、何をして遊んだのか、何が印象に残っているのかという会話が担任とできるようになってきた。友だちの様子やその時の気持ちを言えることも多くなってきた。
「〇君は三輪車こぐのめっちゃ速い。」「おれが悪者で、〇くんが警察！」等(7月)
- ・以前は決して家庭での出来事を学校では話さなかったが、家であったことを撮影して学校で話げできた。
(弟の誕生日会、夏休みの旅行で、新幹線で新潟に行ったこと、大宮鉄道博物館に行ったこと等)
- ・冬休み前になると、「新潟に行くから、iPad 持って帰りたい。雪撮りたいねん。」と担任に伝えられた。(家庭でも同様に言っていたようである。)

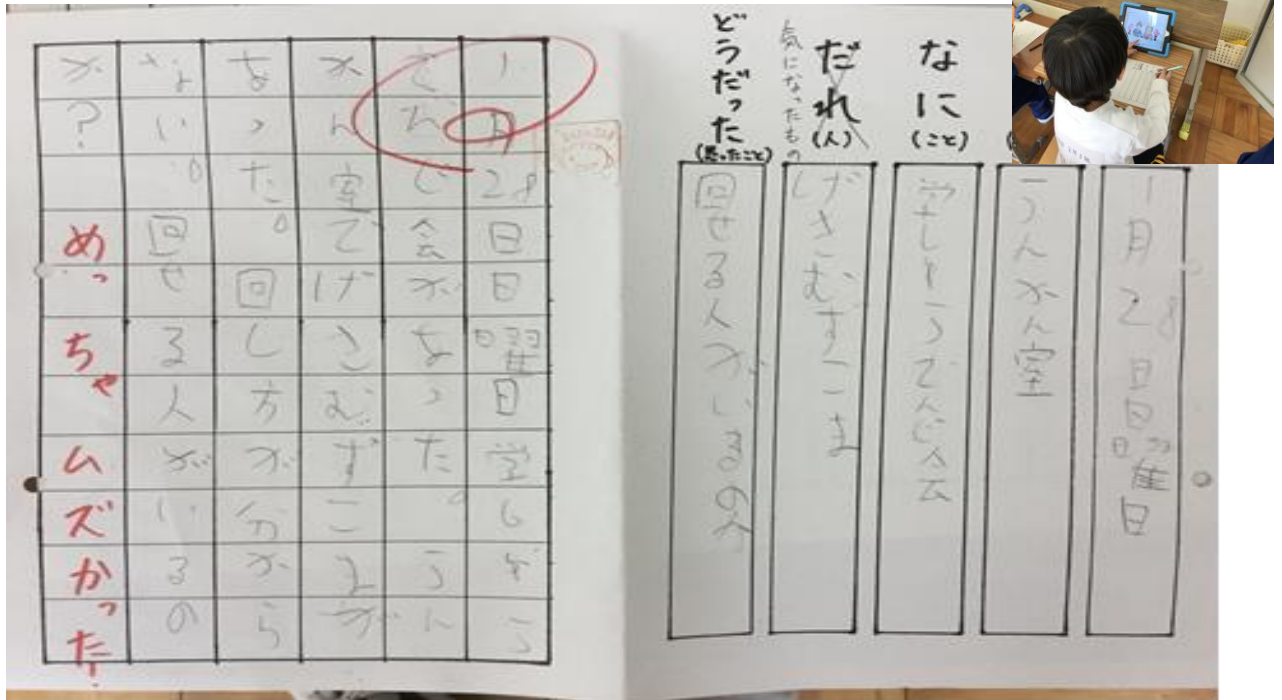
図：給食を伝えている様子

②表現することⅠ・Ⅱ

表現する経験を重ねることで、表現の仕方や言葉の使い方が学習できてきた。

- Ⅰ) 運動会、遠足、学習発表会等の行事や、図工、かず・ことば等の授業の振り返りとして、学校でアプリ「3秒日記」をつけはじめた。「3秒日記」に取り組み始めてからおよそ1か月程度で『いつ・天気・どこ・だれ・なに・どうだった』に答えられるようになった。(動画や写真を見て思い出しながら) また、選択肢にないものは担任の言葉かけや、自分で調べて入力することもできるようになった。

Ⅱ) はじめは、単語を羅列していき、そのまま繋げて文章とすることで、徐々に書いて表現する経験を重ねていった。次第に、助詞や接続詞を意識するようになり、選択肢があるとそこから適切なものを選んで組み合わせるようになった。3学期になると、右のメモを見ながら自分で文章を組み立てられるようになり、さらに表現の幅も広がった。



図：学習展示会の感想

▶上図では、ペットボトルで作ってあるコマの作品を実際に回してみても、自分も担任も回すことができなかったため、自分なりに『げきむすこま』と表現している。
感想の部分を見ても、取り組み当初は「楽しかった。」がお決まりだったが、「がんばった。」「またやりたい。」「寒かった。」等、少しずつ変化が見られた。

言葉の学習に関すること

①言葉の学習の画像利用と検索の方法

言葉だけではイメージのできなかった物が、視覚情報から物と言葉が結びつけられた。

<家庭の様子>

・連絡帳を通して、宿題の様子を教えていただいた。画像を検索して、イメージを補完することが少しずつ自分の学習方法として確立してきた。

国語の宿題をしている時に、タブレットを使って画像を探しながら勉強しました。

▲連絡帳の記載

<学校の様子>

- ・国語の読解（テントウムシに関する説明文）の課題をしている時に、画像検索をかけながら特徴を捉えることで理解が深まっていた。

〔エピソード〕

その時のやりとり…T「テントウムシって知ってる？」

児「…」

T「何色やる？どんな形やる？」

児「…」

T「よっしゃ、ほんならちょっと調べてみる？」

児「(コクッ)」

児「ああ！これか。見たことあった！」



図：学習の様子

②言葉の意味理解、語彙を増やす

学びたい気持ちがあった本児が、学び方を学習することで、少しずつ「自分の学習方法」を自分で理解し、確立していくことができるようになってきた。

<学校の様子>

- ・元々関心が高かったが、とにかく漢字が大好きになった。漢字を学習したから、言葉を勉強する様子。漢字テストを行う中で、アプリ『例解学習国語辞典』で言葉を調べるようになった。
- ・文章読解の課題では、選択肢があると正解できるようになった。また、文章の要点をまとめる穴埋めの設問にも答えられるようになった。（設問の言葉や、文章中の言葉の中で分からないものは常に調べられるようにしている。）
- ・以前に比べてかかる時間も短縮され、間違っても再度考えられるようになった。また、分からないことが受け入れられ、「ここは分からなかった。」と担任に言えるようになった。この場合は、担任と一緒に学習をした。



図：アプリ『例解学習国語辞典』に画像を貼り付けたもの

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

視覚情報を手立てにしながらか話をする経験を重ねること、イメージを含んだ言葉の学習が、本児の想起する力に繋がっていくのではないか。

・エビデンス

これまでの様子から振り返ると、1年生時～2年生はじめまでは、家庭でのことは学校で言わなかった、学校のことは家庭では言わなかった本児であった。しかし、実は話したいことはたくさんあったが、どのように話していいかが分からなかったために、口をつむいだり怒ったりして誤魔化していたと考えられた。「わからない、できない」ことが許せない性格が相まって、そのような手段を取るしかなかったと考えられた。

このようなこともあり、手帳の診断の際や学年の担任、また保護者からも誤解をされてきた児童であったと考えられる。

日ごろの様子を細かく観察し、WISC-IVの検査結果と合わせて振り返ると、適切な手立てと支援があれば、

徐々に話せることが分かった。実際に、保護者の実感として、また学年の担任団の実感として本児童の変化が大きく感じられた。

保護者より、連絡帳にて

最近、話をしてくれることが増えたように感じています。

昨年度担任より、

最近、Sくん明るくなったよね。去年に比べてほんとに変わったよね。

と、身近な周囲の反応からもそのことが伺える。

また、イメージを補いながら言葉の学習をすることで、少しずつ言葉を表出することができるようになってきた。

アプリ「例解学習国語辞典」内の検索語数を比較すると、

9月時点では26語。(基本的に担任付き添い)

2月現在は、238語と大幅に増えている。(担任の知らない間に！)

このことから、言葉を適切な方法で学習することで自分の知識として蓄えられ、言葉の引き出しの中から選んで取り出すことができるようになってきたと考えられる。

また、「特別児童扶養手当」の申請のために11月頃にWISC-IVの検査を受けた。この時は、**筆答の配慮をせずに検査を受けた**が、以下のような結果となった。

検査結果

| 11月初旬頃 | | | | 信頼区間 | |
|-----------|------|------|---------|---------|------|
| | | 合成得点 | パーセンタイル | 90% | 記述分類 |
| 全検査 | FSIQ | 100 | 50 | 95-105 | 平均 |
| 言語理解 | VCI | 69 | 2 | 65-79 | 低い |
| 知覚処理 | PRI | 120 | 91 | 111-125 | 高い |
| ワーキングメモリー | WMI | 91 | 27 | 85-99 | 平均 |
| 処理速度 | PSI | 127 | 96 | 115-131 | 高い |

このように、筆答も検査の参考に入れるという配慮がなかったにも関わらず、6月の検査とほぼ同等、もしくは少し上回る結果となった。

・その他のエピソード

少しずつ話せるようになってきたことで、本人の精神面の成長にも大きくつながった。

▶以前は、初めてのことや苦手なことは避けて通ってきた(このことも経験不足につながっている)が、やってみよう、挑戦してみようと様々なことに意欲的になった。(自転車や跳び箱、鉄棒、竹馬、プール等)

▶苦手な食べ物が多く、食べることに苦手意識が強かったが、「3年生なるし、25分目標や！」と前向きに捉えるようになった。

▶学習面でも知的欲求が高まってきており、「割り算をしたい」と担任に伝え、割り算の文章題ができるようになった。

▶以前は間違いを指摘されると固まって泣くことが多かったが、間違いを受け入れられるようになり、「まちごーたわ」「分からへん」が言えるようになった。それだけでなく「今度はまちがわんで」「はい、次は本気やで、ほんまに」等、非常に前向きに。

- ▶2月に療育手帳の更新に行ったが、手帳は更新されなかった。保護者より、「本人は、めちゃくちゃ張り切って検査を受けてました。」と連絡をいただいた。(この時は、K式発達検査)
- ▶家庭での宿題は、ほとんど一人でこなしているそうで、保護者いわく「一人でiPadを使いながら宿題をしていて、知らない間に済ませてます。」とのこと。
- ▶「分からなかったら…？」という担任の言葉に、「調べよか！」と返す本児童。『分からへんやつは調べたらええやん』が本児童の魔法の言葉になった。

【今後の見通し】

- 平成30年度より、地域の小学校への転学の希望があったため、学校見学、教育相談等で、転学予定先に対して『合理的配慮』を求めている。市の教育委員会より、引継ぎの要請有。正式に4月より転学の方向へ。
- 保護者より、「来年度以降も同じように勉強したり会話をしたりしていくためにiPadを買おうと思うので、相談に乗ってくださいね」と担任への言葉があった。